※本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

挨　拶

謝　　辞

被表彰者代表
宝　池　隆　史

ただいまご紹介いただきました，日本ガイシの宝池でございます。大勢の大先生，また，私よりはるかに功労の多かった，今日ご欠席の元理事長様方などを差しおき，まことに僭越ではございますけれども，表彰をいただきました方々と私自身のお礼の言葉として一言ご挨拶させていただきます。

私は，2008年度から12年度まで，常務理事３期，副理事長１期，そして最後に監事を１期務めさせていただきました。その結果，このように晴れがましい表彰をいただくという栄誉を得たわけでございます。けれども，実を申しますと，私は一般法務出身でございまして，知財のエキスパートでも何でもないわけであります。私どもの会社では，法務部長が一般の法務と知財の両方をカバーするということで，私の場合，知財の実務のことはだいたいが部下に任せきりであったわけであります。

そのようなときに，当時次年度の理事長に内定されていたデンソーの碓氷様から常務理事をやってみないかというお話をいただきました。私としては直ちに腰が引けたわけでございますけれども，部員に，なんとか部長らしいことをしてやりたいと思っていたところでもございまして，皆と相談したところぜひ受けろと申します。そこで協会側には，私は知財のことは何にも知りませんし，何にもできませんとお断りした上で，常務理事の末席に加えていただいたわけでございます。

知財協さんからいたしますと，こういう素人を常務理事にして大変ご迷惑だったと思います。それまでの知財協さんとのおつき合いでは，私は研修コースで専ら生徒だったわけでありまして，いきなり常務理事になれと言われますと，小学生が突然大学生か何かになったみたいで非常に不安だったことを覚えております。ただ，役員を務め終えた今思いますと，本当に幸運であったと思っております。その時代を代表し，世界をリードする知財のエキスパートの方々に親しく教えを受けることができました。最先端の問題に触れることができました。いつもたくさんのことを気づかせていただきまして，それを自分の会社に持ち帰り，仲間に伝え，また場合によっては，お教えを受けた方々を会社にお招きして，自分に不足する能力を補わせていただいたというのが実情でございまして，貢献などと言われると全くないに等しいのでございます。

そういうことで，ある意味，異分子のような状態でございましたけれども，知財協の方々は度量が広く，私のような少し変わり者も温かく仲間に加えてくださいました。未熟な方向違いの発言にも真摯に耳を傾けていただいたことに感謝しております。そしてその居心地のよさに，差し当たり２年程度といわれていたのが，気がついたらいつの間にか５年もお世話になることになり，表彰の資格を得たということです。その間を振り返りますと，何の功績もなかったことが恥ずかしくて，ここにおり

※本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

ましても台の下に隠れたいような気持ちでございます。

思い出すことと申しますと，2008年度に初めて東京から離れて京都でJIPAシンポジウムを開くことになりました。今日も会場に見えている積水化学の石原さん（当時副理事長）がその企画・運営のリーダーをされ，そのもとで協力させていただきました。折からリーマン・ショックがございまして，京都で一体どれだけ参加者を集められるだろうと随分心配したことがございました。そういう時にJIPA関係者は皆団結して懸命に動員に走り，そのシンポジウムを盛況かつ成功裡に終えられたのでありますが，そのときの嬉しさは今も忘れることができません。また，今また再び大きな話題になっております営業秘密につきましては，前回の不競法改正の時に，産業構造審議会，知財部会の小委員会に，知財協推薦の委員として参加させていただきました。事務局やフェアトレード委員会の大きな支援を受けて，得難い経験をさせていただいたわけでございます。そのようなことも含めまして感謝の気持ちでいっぱいです。

さて，JIPAは私の役員在任中にスローガンを更新いたしました。先ほど来話題になり，また今年も継承される「世界から期待され，世界をリードするJIPA」。皆さんもよくご存じだと思います。私はこのスローガンもいいと思いますが，その英訳版のほうがもっとすばらしいと感じております。それは「Creating IP Vision for the World」であります。

中国ほか新興国の台頭の中で，西欧モデルのもとに一定の完成というか，安定をみました知財システムが，今，大きく揺さぶられている時かと思います。日本は歴史的には海外からの文物を受け入れて，それに順応することに巧みであると言われてまいりましたけれども，これからはより積極的に世界に貢献できるし，すべき時代にあると思っております。それはまた世界の最先端の問題の直面している人たちの，世界史に対する責務であろうと思っております。その意気たるやよしというべきでありまして，私も第一線からは一歩ずつ引きつつございますけれども，これからも知財協並びに知財専門家の皆様のご活躍を信じ，心よりエールを送ってまいりたいと思います。本日はどうもありがとうございました。